



クラスタへの Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアの導入

リリース 3.10.1 以降、Cisco Nexus Data Broker (NDB) は Cisco Nexus Dashboard Data Broker に名前が変更されました。ただし、GUI およびインストールフォルダ構造と対応させるため、一部の NDB のインスタンスがこのドキュメントには残されています。NDB/ Nexus Data Broker/ Nexus Dashboard Data Broker という記述は、相互に交換可能なものとして用いられています。

この章には、次の詳細が含まれています。

- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール](#) (1 ページ)
- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード](#) (3 ページ)

Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール

Cisco NDB クラスタをインストールするには、以下の手順に従います。

始める前に

前提条件：

- Cisco NDB は、2 ノードおよび 3 ノード クラスタをサポートします。
- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信する必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスタリング設定情報を config.ini ファイルに持つ必要があります。
- クラスタを形成するには、すべての NDB インスタンスが同じ NDB バージョンである必要があります。

- クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを **ndbjgroups.xml** ファイルに設定する必要があります。HA クラスタのパスワード保護セクション（*Cisco Nexus Dashboard Data Broker Configuration Guide*）を参照してください。



(注) クラスタを形成するすべての NDB インスタンスは、同じ NDB バージョンである必要があります。

- ステップ 1** Web ブラウザで、www.cisco.com に移動します。
- ステップ 2** 下方向へスクロールして、**[ダウンロード（Downloads）]** をクリックします。
- ステップ 3** **[製品の検索（Select a Product）]** 検索ボックスに「*Nexus Dashboard Data Broker*」と入力すると、最新リリースの**[ソフトウェア ダウンロード（Software Download）]** 画面が自動的に表示されます。
- リリース 3.10.2 のファイル情報：Cisco Nexus Data Broker Software Application: ndb1000-sw-app-k9-3.10.2.zip が表示されます。
- ステップ 4** Cisco Nexus Data Broker アプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。
- ステップ 5** Cisco Nexus Data Broker をインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを作成します。
- たとえば、ホーム ディレクトリに、CiscoNDB を作成します。
- ステップ 6** 作成した NDB ディレクトリに Cisco Nexus Data Broker の zip ファイルをコピーします。
- ステップ 7** Cisco Nexus Data Broker の zip ファイルを解凍します。
- Cisco Nexus Data Broker ソフトウェアが `ndb` というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。
- `runndb.sh` ファイル：NDB を起動するためのファイル。
 - `version.properties` ファイル：NDB ビルド バージョン。
 - 構成ディレクトリ：NDB 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている `startup` サブディレクトリが含まれます。
 - `bin` ディレクトリ：NDB 共通 CLI を持つ NDB ファイルが含まれています。
 - `etc` ディレクトリ：プロファイル情報が含まれています。
 - `lib` ディレクトリ：NDB Java ライブラリが含まれています。
 - `logs` ディレクトリ：NDB ログが含まれています。
- (注) `logs` ディレクトリは、NDB アプリケーションの起動後に作成されます。
- `plugins` ディレクトリ：NDB プラグインが含まれるディレクトリ。
 - `work` ディレクトリ：Web サーバーの作業ディレクトリ。

ステップ 8 ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

ステップ 9 任意のテキスト エディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ipn>
```

ステップ 10 スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDB サーバーの IP で置き換えます。

```
IPv4 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1

IPv6 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

ステップ 11 ファイルを保存し、エディタを終了します。

ステップ 12 NDB がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 5 から 11 を繰り返します。

ステップ 13 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDB サーバーを起動します。

ステップ 14 プライマリ NDB サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDB サーバーを起動します。

Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード

始める前に

前提条件：

- Cisco Nexus Dashboard Data Broker は、2 ノードおよび 3 ノード クラスタをサポートします。偶数のノードを構成すると、最後のノードがクラスター形成に含まれないため、セットアップ内のノードの数は奇数にしてください。
- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信する必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスターリング設定情報を `config.ini` ファイルに持つ必要があります。
- クラスタを形成するには、すべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスが同じ Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。

- クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを **ndbjgroups.xml** ファイルに設定する必要があります。 *Password Protecting for HA Clusters* のセクション（*Cisco Nexus Data Broker Configuration Guide*）を参照してください。



(注) クラスタを形成するすべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスは、同じ Cisco Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。

- ステップ 1** Cisco Nexus Dashboard Data Broker プライマリ サーバーにログインします。
- ステップ 2** [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Administration)] に移動します。
- ステップ 3** [ローカルでバックアップ (Backup Locally)] をクリックして、構成ファイルをダウンロードします。
- ステップ 4** **runxnc.xh -stop** コマンドを使用して、すべての Cisco Nexus Dashboard Data Broker インスタンスを停止します。
- ステップ 5** NDB サーバーと NDB デバイスの間で TLS 証明書が有効になっている場合は、/xnc/configuration から **tlsTrustStore** および **tlsKeyStore** ファイルのバックアップを構築します。
- ステップ 6** すべての NDB クラスタ インスタンスで前の手順を実行します。
- ステップ 7** Web ブラウザで、www.cisco.com に移動します。
- ステップ 8** [サポート (Support)] > [製品 (Products)] > [ダウンロード (Downloads)] に移動します。
- ステップ 9** 製品とダウンロードの検索ボックスに「Nexus Data Broker」と入力し、検索応答リストから「ダウンロード (Downloads)」をクリックします。
- リリース 3.10.2 のファイル情報 : Cisco Nexus Dashboard Data Broker Software Application : **ndb1000-sw-app-k9-3.10.2.zip** が表示されます。
- ステップ 10** Cisco Nexus Dashboard Data Broker のアプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。
- ステップ 11** Cisco Nexus Dashboard Data Broker をインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを構築します。たとえば、ホーム ディレクトリに Cisco Nexus Dashboard Data Broker を構築します。
- ステップ 12** Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを、構築したディレクトリにコピーします。
- ステップ 13** Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを解凍します。
- Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアは、**ndb** というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。

- **runndb.sh** ファイル : NDB を起動するためのファイル。
- **version.properties** ファイル : NDB ビルド バージョン。
- 構成ディレクトリ : NDB 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている **startup** サブディレクトリが含まれます。
- **bin** ディレクトリ : NDB 共通 CLI を持つ NDB ファイルが含まれています。

- etc ディレクトリ：プロファイル情報が含まれています。
- lib ディレクトリ：NDB Java ライブラリが含まれています。
- logs ディレクトリ：NDB ログが含まれています。

(注) logs ディレクトリは、NDB アプリケーションの起動後に作成されます。

- plugins ディレクトリ：NDB プラグインが含まれるディレクトリ。
- work ディレクトリ：Web サーバーの作業ディレクトリ。

ステップ 14 ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

ステップ 15 任意のテキスト エディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

ステップ 16 次のテキストを探します。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ipn>
```

ステップ 17 スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDB サーバーの IP で置き換えます。

```
IPv4 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1

IPv6 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

ステップ 18 ファイルを保存し、エディタを終了します。

ステップ 19 NDB がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 7 から 18 を繰り返します。

ステップ 20 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDB サーバーを起動します。

ステップ 21 プライマリ NDB サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDB サーバーを起動します。

ステップ 22 プライマリ NCS サーバーの NDB GUI にログインします。

ステップ 23 [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] > [アクション (Actions)] > [ローカルで復元 (Restore Locally)] に移動し、以前にダウンロードした構成をアップロードします。

ステップ 24 `./runndb.sh -stop` コマンドを使用して、クラスタ内の NDB のすべてのインスタンスを停止します。

ステップ 25 NDB サーバーと NDB スイッチの間で TLS 証明書が有効になっている場合は、`tls TrustStore` および `tlSKeyStore` ファイルを、手順 5 で確認した、すべての NDB インスタンスの `ndb/configuration` にコピーします。

ステップ 26 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDB サーバーを起動します。

TLS 証明書が有効になっている場合は、以下のコマンドを使用して NDB サーバーを起動します。

```
./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore
./configuration/tlsTrustStore
bin/ndb config-keystore-passwords --user <NDB_username> --password <NDB_password> --url
```

```
https://<Cluster_NDB_IP>:8443 --verbose --prompt --keystore-password <keystore-password>  
--truststore-password <truststore-password>
```

ステップ 27 **./runndb.sh -start** コマンドを使用して、メンバー NDB サーバーを起動します。

TLS 証明書が有効になっている場合は、以下のコマンドを使用して NDB サーバーを起動します。

```
./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore  
./configuration/tlsTrustStore  
bin/ndb config-keystore-passwords --user <NDB_username> --password <NDB_password> --url  
https://<Cluster_NDB_IP>:8443 --verbose --prompt --keystore-password <keystore-password>  
--truststore-password <truststore-password>
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。